

# 第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第9期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
上砂川町	①自立支援・介護 予防・重度化防止		社会参加推進事業(ますますカード)で、通いの場への参加機会が増加するよう支援します。	<<数値目標>> 65歳以上人口の1割以上の参加率	令和6年度、ポールウォーキング1地区増。ますますカードの対象事業を運動事業から社会参加に枠を広げたため、令和5年度の20事業から36事業に増加している。65歳以上の参加者は、160人。年度末の65歳以上人口が1,189人のため、参加率は13.5%となり、目標を達成した。	◎	想定していた以上に、通いの場に参加している高齢者がいることが把握できたが、参加グループや参加者が増えることで、事務作業も煩雑となっている。フレイル予防を目的として、今後も続けていくために、デジタル化による効率化が必要である。
	①自立支援・介護 予防・重度化防止	介護認定率は年々上昇し、令和5年は24.3%と令和3年から1.1ポイント増、空知中部広域連合の19.6%と比較しても高いことが課題である。原因疾患は認知症が1位となっている。住民自身が、フレイル予防及びフレイル状態になっても自立又は維持するため介護予防事業に取り組むことを支援する必要がある。	住民主体の事業を含め、さまざまな通いの場に参加することで、フレイルを防止するよう支援します。	<<数値目標>> 年度末アンケートで体力を維持向上している人の割合80%以上	運動事業参加者83人～令和6年度のアンケート結果(令和7年4月集計) ・自覚的变化～維持・改善の割合が、①階段昇降(77.1%)、②歩行速度(68.7%)、③歩ける距離(72.3%)、④買い物荷物を持ち帰る力(75.9%)、⑤やや重い家事(80.7%)となっている。⑤のみ目標の8割に届いたが、対象が年齢(平均年齢79.1歳)を重ねていくためか、今までより低い結果となっている。 ・健康感～83.1%が、ふつう以上と答えている。	△	ますますカードの対象を拡大したようにアンケートも運動面だけでなく、フレイルの観点からの設問に変更していく必要がある。
	①自立支援・介護 予防・重度化防止		個々の加齢や疾病による身体機能の低下について、リハビリ専門職が、タイムリーかつ集中的に回復に向けて支援します。	<<数値目標>> 転倒不安感尺度かつ主観的健康観で、維持・改善している人の割合80%以上	ココトレ実施回数:23回 年度内実施者:36人(中断1人～持病の悪化) 年度内評価対象者:20人(単発で比較なし～2人) 改善15人、維持5人 次年度継続:16人	◎	維持・改善率が100%となり、目標の80%は達成した。ただ、未把握の対象が地域に潜在していることを考え、引き続き包括・健診部門と連携し、必要としている人にアプローチするとともに新たに地域おこし協力隊で着任したPTの協力も得て、さらに広く介護予防を図っていく。
	①自立支援・介護 予防・重度化防止	後期高齢者数が多く、次世代の担い手が少ない。また、医療・介護における従事者が不足している傾向があり、今後円滑な連携が行えなくなる可能性がある。	ケアマネジメント支援会議(自立支援型)対象者の状態が維持または向上を目指します。	<<数値目標>> 認定区分の変更割合・維持または向上が80%以上	各専門職から自立支援に対するアドバイスを受け、支援実施。また、支援実施後は、モニタリングにより状況を把握し、次のプラン作成に活かしていく。	◎	該当する対象者の減少があり、高齢化率の上昇や後期高齢者の比率が高いことが背景にあると想定され、さらに高齢者の就業制度も重なっていることも考えられる。今後は目的を再確認しつつ、対象者の検討を図っていく。
	①自立支援・介護 予防・重度化防止	認知症キッズサポーター養成講座を実施します。(対象者:小学6年生)	小学校の総合的な学習の時間において小学6年生を対象に「福祉授業」と「認知症キッズサポーター養成講座」を年1回ずつ小学校校舎にて実施。先に「福祉授業」を実施し、人との違いは個性と障害があることや障害者と高齢者の疑似体験を行い、後日「認知症キッズサポーター養成講座」を実施。	<<数値目標>> 認知症キッズサポーター養成講座の開催数年1回以上	次世代の担い手として、小学6年生を対象に「福祉授業」と「認知症キッズサポーター養成講座」を実施。先に「福祉授業」を実施し、人との違いや個性と障害について講座を行い、障害者と高齢者の疑似体験を実施。「認知症キッズサポーター養成講座」を行うなどそれぞれ実施。そのため、数値目標は達成することができた。	◎	やむを得ず参加できない小学生には、後日資料を配布。高齢化に伴い次世代の担い手不足が見込まれることから、今後も小学6年生を対象に次世代の担い手として毎年実施していく必要がある。
	①自立支援・介護 予防・重度化防止	医療・介護関係者の相互理解や情報共有が円滑に行えるよう研修会や事例検討などを行います。	医療・介護関係者の従事者研修と代表者会議を毎年開催。	<<数値目標>> 参加率65%以上	医療・介護関係者の参加率は53%と未達成。	△	参加率が低迷している。参加人数を目標設定としていたが、各事業所内での伝達や共有を加味し、今後は各事業所単位の参加率を数値目標とすることを検討。また、オンライン研修も検討していく。

## 第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第9期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
空知中部 広域連合	②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要なサービスを提供できるようにするため、北海道では「第6期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている5項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1,008件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
	②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	4事業所計8件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
	②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行った。また、適切な福祉用具等が選定されるようケアプラン点検時に確認を行った。	◎	不適合な改修の申請の場合は、申請者やケアマネジャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。また、ケアプラン点検時にも確認を行っていく。
	②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。